

中部大学国際人間学研究所のミッションと達成のためのプロジェクトの概要

Overview of the Sustainable Society Projects to Achieve the Mission of the Institute of Global Humanics



柳谷啓子 YANAGIYA, Keiko

中部大学 人文学部 コミュニケーション学科 教授

中部大学 国際人間学研究所 所長、人文学部 学部長

慶應義塾大学大学院 文学研究科 博士後期課程 単位取得満期退学。文学修士。専門分野は、社会言語学、英語学、談話分析。研究テーマは、メディアと表現の関係、デジタルアーカイブなど。主な訳書・著書に『読みのプロトコル』『スコールズの文学講義：テキストの構造分析にむけて』『エーコの読みと深読み』（以上岩波書店）『<はかる>科学：計・測・量・謀：はかるをめぐる12話』（中央公論新社）。

中部大学国際人間学研究所規程に「目的」として記されている国際人間学研究所のミッションは、地域活性化（ローカリゼーション）を通じた国際共生社会の実現（グローバリゼーション）に向けて、法律、政治、社会、歴史、文学、心理、芸術などの分野で学内外の研究を推進すること（規程第2条）、および、それを通して国際人間学研究科の教育研究力をさらに向上させ、中部大学の存在意義を高めることです。研究所は、このミッションを達成するため、(1) プロジェクト（以下PRJ）研究の実施、(2) 他の研究機関との共同研究の実施、(3) 受託調査研究の実施、(4) 公開講演会、公開シンポジウム等の開催、(5) 大学院生の研究支援などの事業を行うことになっています。

上記ミッションの遂行にあたり、私が所長に就任した2019年度より、中長期的目標として、国連提唱のSDGs達成に寄与するため、学内外・国内外の研究者、および各地自治体（春日井市、恵那市、高山市、稚内市等）や春日井商工会議所とも連携し、国際社会を含む学内外をつなぐハブとして教育・研究・社会貢献を実践することを掲げてきました。2019年度から2022年度は、共通課題「持続可能な観光」の下、大学院生・学部生・CAAC生らも参加する5つの地域貢献型の研究PRJを推進し、最終年度には提言をまとめました。

2023年度から2025年度は、その延長線上で「持続可能な社会」を共通課題とするPRJを募りました。地域社会の崩壊（文化、情報、交通、人口減等を含めた不便さからくるコミュニティ消滅等）、文化財の散逸（農村部の寺社の廃止等による地域文化財の損傷、盗難、売却等）、民俗芸能等の衰退（人口の減少等による後継者不足による継続困難等）、観光資源の消滅（観光による乱開発からくる観光資源の破損・枯渇、自然環境の破壊、地域住民の生活破綻）等々、持続可能な社会の存続の妨げになるような事項を取り上げ、問題を明らかにしてリスクの低減方策を考えて、実行に結びつけることを目指すこととしました。その結果、「東濃地方の地芝居を中心とした地域伝統文化継承のための資源記録保存 PRJ」、「登山を通して考える持続可能な地域観光資源の保護PRJ」、「地域情報デジタルアーカイブPRJ」、「地域新聞デジタルアーカイブの検索のためのメタデータ検討 PRJ」、「メディア表現を活用した地域文化再考PRJ」が採択され、走り始めました。これらのPRJには、極力、大学院生（一部学部生）も含み、OJT的に研究調査等のノウハウを伝授することで、大学院を活性化することも目的の一つとしています。

東濃 PRJは、2019年度から2022年度までの「持続可能な観光」PRJに引き続き、恵那市飯地町五毛座歌舞伎とふるさと資料館所蔵品の記録映像・録音のデジタル化、関連文物の撮影、聞き取り調査、アーカイブ化等を行っています。登山道PRJは、登山ブームで問題化している登山道

のオーバーユース解決に向けて、登山のベースとして類似する高山市と旭川市の実情や政策を比較し、対策検討に向けて分析しています。地域情報デジタルアーカイブPRJは、静止画・動画・3Dオブジェクト・技能・音などのデジタルアーカイブ用素材を収集しつつ、デジタルアーカイブの持続可能な運用に資するべく、データ作成・登録などの実作業向け教育についても検討する予定です。地域新聞デジタルアーカイブPRJは、『日刊宗谷』の画像データのテキスト化、及び利活用のための有効なメタデータの検討を行っています。地域文化再考PRJでは、歴史的な場所や地域特有の特産物、工芸品など地域文化に関する資源に新しいデザイン手法を取り入れて再考し、魅力を創生することを目指して活動しています。

本報告書は、新型コロナウイルス感染症による行動制限もほぼなくなった2023年度に、上記目標の下で各PRJが実施した教育研究活動の成果発表会を兼ねたシンポジウムの記録です。お気づきの点等ございましたら、ご指導ご鞭撻のほど、どうかよろしくお願い申し上げます。

なお、本報告書は、バックナンバーも含めて、中部大学附属三浦記念図書館が管理する中部大学学術情報リポジトリで読むことができます。こちらをご覧ください。こちらをご覧ください。



東濃地方の地域伝統文化継承のための資源記録保存PRJ協力者の山口鉦一氏



東濃地方の地域伝統文化継承のための資源記録保存PRJの嘉原優子教授



メディア表現を活用した地域文化再考PRJの河村陽介講師



メディア表現を活用した地域文化再考PRJ協力者の後藤容充氏



地域情報デジタルアーカイブPRJの柘和佑准教授・協力者の尾崎篤志氏



地域情報デジタルアーカイブPRJ協力者のB. P.ゴータム教授



登山を通して考える持続可能な地域観光資源の保護PRJの曾我一正教授



登山を通して考える持続可能な地域観光資源の保護PRJ協力者の泉田真吾氏



シンポジウム会場の不言実行館2階の学生・コモンズ